



### 山行報告

#### ★馬頭刈山・清掃登山(12月7日)

参加者 会員(障害者5名、健常者9名)  
会員外(健常者1名)

今日はすばらしい快晴に恵まれたが、ここ数日の朝の冷え込みで、登山道が凍っている可能性もあるので、念のため軽アイゼンを持ってきて欲しいと前日にメールでお願いしたが、読んでいない方もいて、コース変更することに決めた。

しかし、それほど心配しなくても良いようであれば、予定通りのコースを行こうかとも思った。そこで、バスの運転手さんに武蔵五日市駅付近で水たまりなどが凍っているか聞いたところ、凍っているとの返事。これを聞いて、気持ちが悪くなり、予定を変更して、とうげん橋のバス停から尾根を登ることにする。

バス通りから細い舗装道路を登り始める。犬の散歩をしていた人が、このコースの登り口を間違える人が多いので注意するように教えてくれる。とてもありがたかった。

声出しをして歩き始める。今日は、登山道のゴミ拾い。中1のSちゃんは、昨年到现在2回目の参加。カラフルなファッションを身にまとい、すっかり山ガールになっている。Y君ももう小5。身長が伸びて、もうすぐおばあちゃんも追い越されそう。ゴミ袋とトングを持って、山道へと入っていく。

登山道は、すぐに急登となる。暗い植林帯を

登っていく。登山者の少ないコースのせいか、ゴミはあまり落ちていない。先頭を歩く私に、後ろから「ゴミを残しておけ」と声がかかる。「あれまあ、それはゴミんなさい」



トングを持って馬頭刈尾根を歩く

稜線につながっている尾根上に出ると、今まで見えなかった西側の山が見えるようになる。葉を落とした雑木林からは、御前山が見えている。近くには、高黒岩がピラミダルな尖ったピークを持ち上げている。さらに登ると、つづら岩が見えるようになる。ここまで来れば稜線も近い。しかし、Y君は退屈な登りに飽きたようだ。ゴミを拾うのではなく、登山道にある石をトングで拾って左右に放り投げている。



馬頭刈山山頂にて

稜線の直下は落ち葉が多く滑りやすい急登になる。がんばって登る。振り返ると富士山が見えるようになった。もう五合目まで真っ白だ。稜線に出ると大岳山も見えるようになる。稜線の北側斜面には雪が残っている。先日の雨が、ここでは雪だったようだ。



馬頭刈山の山頂は、ここより低い。鶴脚山を越え、ぐんぐん下ってから登り返す。山頂直下は、樹林がまばらで富士山がよく見える。ただ、もう逆光になり、雲もかかるようになっていた。

馬頭刈山の山頂でちょっと遅い昼食タイムとする。山頂からは大岳山がよく見え、丹沢の大山や丹沢三峰、丹沢山などが見える。三頭山も見えていた。

山頂からの下りは岩や石の多い歩きにくい道だが、Sちゃんはしっかりと下りてくる。立山三山や鹿島槍を登っただけのことはある。技

## ★馬引沢峠(12月14日)

参加者 会員(健常者6名)

会員外(障害児1名、健常者1名)

今日は冷え込みは強かったが、日中は穏やかに歩いていると暑く感じるくらいだった。

今回は少人数だが、Iさん親子が初参加なので、とても新鮮な雰囲気だ。リーダーはNさん。しっかり下見をしていただいたおかげで迷うことなく歩けました。

術は確実に上達している。



今回、紅葉はほとんど終わっていたが、1箇所だけきれいに紅葉しているところがあった。逆光に照らされてより一層きれいに見える。

神社の跡がある高明山を過ぎ、どんどん下って行く。Y君が遅いと思ったら、どうもSちゃんをエスコートしているらしい。Y君も成長しているね。

つづら岩に直登するコースを通らなかったため、軍道に予定より30分早く着いた。16時半を過ぎると急に暗くなるので、明るいうちに下山できて何よりでした。 記：網干

## コースタイム

とうげん橋(10:35) … 馬頭刈尾根稜線(12:30) … 馬頭刈山(13:10-13:50) … 軍道(16:00)

障害を持つM君は、しゃがんでいる私の帽子をいきなり持ち上げたので驚いたが、歩き始めるとすぐに手をつなぎ、腕を組んでくる。中2だが身長はもう私と同じくらいで、もうじき180cm以上になるのではないかと思う。

登山道に入っても、M君は腕を組み、さらに腕にぶら下がるようにして歩くようになる。それでも順調に進んでいる。要害山には計画より少し早く到着。M君はそろそろおなががすいてきたようだ。もう少し我慢して歩くことにする。

縦走路から少し外れたところに天狗岩はある。階段を下り、さらに登り返して天狗岩に到着する。ここは岩場のため、展望がすばらしい。多摩川の流れに沿って町が見え、その向こうには、高水三山方面が見える。大岳山もひととき高く見えていた。M君が落ちないように注意しながら、集合写真を撮る。下見の時はほとんど人に会わなかったそうだが、今日は数パーティーに出会った。



天狗岩にて

天狗岩から来た道を引き返し、赤ぼっこに向かう。赤ぼっこは、植林された木を伐採してあり、展望が良い。ピークに1本だけ木を残しているようだ。関東平野の向こうに筑波山が見え、都心のビル群とその左にスカイツリーも見えていた。



M君の遊び相手のAさん

赤ぼっこで昼食を摂り、馬引沢峠に向かう。馬引沢峠は何の変哲もないところだったが、マ

ウンテンバイクが10数台乗り捨てられてあった。ここからオリエンテーリングに行っているようだった。

ここから分かりにくい道を下見をしたNさんコンビに案内してもらって、迷わずに二つ塚峠に到着する。途中からM君には、ザックに付けたひもにつかまって歩いてもらっているが、ぐんぐん引っ張られるので、足腰の鍛錬になりそうだった。



展望の良い赤ぼっこにて

墓地の横を通り、さらに下って行くと天祖神社に到着する。相変わらず、誰かがお賽銭を入れると、それに便乗して、一緒に山の安全を祈る。

あとは、車道を歩いて青梅駅を目指す。M君に、今日は楽しかったか聞いたら、「楽しかった」と答えてくれた。お母さんが、楽しくない時は、なんて言って良いのか分からないので、返事をしないと教えてくれる。

Iさん親子には、初参加を楽しんでもらえたようだ。今度は、妹さんも一緒に参加かな？

記：網干

### コースタイム

宮ノ平駅(9:55)…要害山(11:15)…天狗岩(12:20-12:05)…赤ぼっこ(12:20-13:00)…旧二つ塚峠(13:45)…天祖神社(14:45)…青梅駅(15:30)

### ★頭高山・忘年山行(10月26日)

参加者 会員(障害者4名、健常者13名)

今日は2014年の忘年山行。実際に最後の登山は、次の燕岳だが、誰もが参加できる山は、この山が最後。

渋沢駅で恒例の挨拶の後、最多参加賞と、部門別（障害の有無で最多参加賞でない人の部門）、新人賞を発表する。今年は、Kさんが最多参加賞。Aさんが障害者部門の最多参加賞。新人賞はTさんだった。Aさんは7年ぶりの返り咲きとなった。

渋沢駅から車道を歩いて登山口に向かう。階段から飛び降りて右腕を骨折したS君が、今年初めての参加となる。S君に会いたいと、Y君とKちゃんも急遽参加となった。

車道もかなりの坂道。しかし、下りもある。なかなかしんどい車道だ。途中の東屋で休憩して、さらに車道を上っていく。ジョウビタキがいたけど、子どもたちの賑やかな声でどこかに行ってしまった。



頭高山山頂でうどんとお汁粉作り

山道に入ると頭高山はもう近い。丹沢方面の展望が良いところを過ぎて、右回りコースに行く。どうもこちらは遠回りだった。途中から道のないところを登って山頂に着く。

山頂では、すでに10人ほどのパーティーがうどんを食べたりビールを飲んだりして楽しんでいる。長い丸太の椅子などをすでに使われていたので、こちらは落ち葉の上にシートを敷いて、その上でうどんとお汁粉作りを始める。テルモスにお湯を持ってきてもらっているの

で、うどんも早くできる。うどんを作った後は、すぐにお汁粉作りだ。S君からシャビシャビだと言われた薄いお汁粉も2回目はますますの濃さのお汁粉になった。うどんも残さずに全て平らげた。



頭高山山頂にて

昼食の後は、子どもたちは何で遊ぼうかいろいろ考えている。そこにIさんが来て、落ち葉を集め始める。最初はいやがっていた子どもたちも、先頭を切って落ち葉に埋まったS君を見て、どんどん落ち葉に埋めてもらうようになる。落ち葉の中は暖かかったかい。



S君を落ち葉で埋める

集合写真を撮った後は山頂を後にする。このまま渋沢に下りて、電車で忘年会場に行こうという話もあったが、せっかくここまで来たので、予定通りのコースを歩くことにする。

八重桜の里、祈りの丘を過ぎ、ぐんぐん歩いて行く。左手には大山から塔ノ岳までの表尾根がよく見え、右手には相模湾と大島が見える。標高は低いけど、展望はすばらしい。

富士山の見える場所にも出た。最後は、震生湖に行く。ここは、関東大震災の時にできた湖

らしい。そのためにこんな名前が付いているようだ。子どもたちは湖の畔で遊びに夢中だが、カワセミが飛んできて木の枝に止まってくれた。その後も何度か姿を見せてくれた。



渋沢丘陵から見た丹沢の山々

震生湖で釣りをしている人に聞いたら、ルアーとは違うが、生きている魚のように見せる仕掛けで、ブラックバスを釣ろうとしているらしい。しかし、午前中から来ているが1匹も釣れ

## ★燕岳(12月26日～28日)

参加者 会員(障害者2名、健常者5名)

### ☆12月26日

当初の予定は27日から29日だったが、26日から28日に変更して欲しいという意見があり、要望通りに変更したが、結果的にはこれが大正解だった。天気予報は、今日が曇り一時雪、27日が晴れ、28日が晴れ後曇り、29日が雨となっている。予報通りの気圧配置となり、寒気も影響しなければ最高の冬山登山日和となりそうだ。それを期待して、有明駅からジャンボタクシーで宮城へ向かう。

雪のない季節なら中房温泉まで簡単に車に入れるのだが、冬は宮城までしか入れない。ここから長い車道歩きとなる。空はどんよりとした曇り空。雪道だがアイゼンは付けずに歩いて行く。

有明山の表参道を過ぎ、一ノ瀬第4発電所か

ていないという。やはり生身のえさでないとなかなか難しいのか？

展望の良い車道を下って秦野の町に下りていく。秦野の駅で解散し、飲む人たちは忘年会の会場に向かう。

今月になって他界した会員のNさんを忍んで、Yさんの計らいで黙祷をしてから飲み始める。

今年は、交流登山のとりまとめでがたがたしたが、それもまた大切な思い出として心に残ることだろう。来年がどんな年になるかは分かりませんが、みんなで楽しい1年にしましょう。

記：網干

## コースタイム

渋沢駅(11:20)…頭高山(12:30-13:35)…震生湖(15:10-15:25)…秦野駅(16:30)

らはジグザグの登りとなる。きつい登りを追え、トンネルを過ぎると観音峠だ。この車道を作る際に殉職した人を奉った観音様がある。峠とはいうものの、ここからもさらに登りが続く。

ようやく信濃坂第5発電所に到着。ここからきつい信濃坂となる。が、思ったほどきつくはなかった。しかし、せっかく登ったのにかなり下る。また登り返して、合戦尾根が見えるようになる。中房温泉は近い。ここですと0.2km毎に道標があり、ありがたかった。

中房温泉付近の道路は雪が溶けている。温泉の暖かさで溶けるのだろうか？

中房温泉に着いて受付を済ませる。12年前に来た時は、こたつ以外に暖房がなく、こたつに入って寝た記憶があるが、今回は、各部屋にこたつの他にストーブもある。とてもありがた。温泉に浸かって、歓談と夕食の後は、早々に床につく。

☆12月27日

今日は、今回の登山の一番主となる日だ。3時頃、外に出てみると、星がきれいだったが、ちらちら雪が顔に当たった。天気予報が当たってくれるのか心配になる。

中房温泉の中の気温は0℃。朝食の時、燕山荘から情報が入り、稜線は強風で-20℃だという。晴れているそうだが、さすがに気温が低い。



全員、中房温泉の外でアイゼンを付けて出発する。登山口からいきなりの急登をがんばる。いつもペースを落とすように努力しているのだが、昨日も後ろとかなり距離が開いてしまった。今日は離れないように、Kさんに2番目に来て歩いてもらう。意識して演歌を歌いながらゆっくり登る。

最初は日が当たらず寒かったが、太陽が当たるようになると暖くなる。寒くはなく、汗をかかない程度のペースを作って登るように心がける。また、汗かきの人にはできるだけ薄着になってもらう。冬山で汗をかくとその後冷えるので、注意が必要だ。

第1ベンチ、第2ベンチと過ぎ、第3ベンチで少しゆっくり休む。今日は、燕山荘の燕岳登頂ツアーの人たちと、同じようなペースで登っていく。

富士見ベンチは標識が隠れていた。麓に雲が多く、富士山はまだ隠れていたが、ハケ岳が何とか見えていた。

さらに登ると、視界が少し開け、左手に大天井岳方面が見えてくる。ようやく傾斜が落ち、

緩やかに登っていくと、合戦小屋に到着する。ここで昼食タイムとする。このコース、ずっとトレースがあったが、深い雪をかき分けてくれた燕山荘のみなさまにただただ感謝です。トレースがなければ、1日で登ることは不可能でした。



合戦小屋に着くと視界は開け、さらに合戦の頭へ登り始めると、ハケ岳から富士山、南アルプスまでとてもよく見えた。雲は完全になくなったようだ。

さらに少し登ると槍ヶ岳も見えてくる。ひときわ高く、やはり北アルプスの盟主だ。真っ青な空の下で、高みを目指す。合戦の頭に着くと、餓鬼岳や針ノ木岳、蓮華岳が見えてくる。これから登る燕岳と燕山荘も見えてくる。稜線に立てばさらに多くの山々と出会える。気持ちも高鳴ってくる。

Fさんから聞いていた「おほめの松」に気づかず通り過ぎてしまった。帰りのお楽しみにしよう。



冬期ルートの最後の急坂を登ると、燕山荘の

裏手に出る。槍穂高連峰から笠ヶ岳、三俣蓮華岳、鷲羽岳、水晶岳、野口五郎岳など、多くの山々が一気に見えるようになる。

燕山荘にザックを置いて空身で燕岳を往復する。ただ、Sさんは体力的にきついので、山頂へは行かずに山荘で待っているという。十分に行けると思うのだが、本人の気持ちを尊重する。



夕日に染まるシュカブラ

ストックでないと危険な全盲のFKさんと、ピッケルの使い方をマスターしていない弱視のFYさんと3人でアンザイレンして、山頂に向かう。



夕日と槍ヶ岳

ほとんど無風快晴、冬山としてはこれ以上ない天気恵まれて山頂に到着する。すぐ近くの北燕岳の向こうに剣岳と立山が見えてくる。その右手には、針ノ木岳、蓮華岳、鹿島槍ヶ岳も見える。南に目をやれば、野口五郎岳方面から槍穂高連峰、大天井岳、常念岳、そして遠くに南アルプス連山、富士山、八ヶ岳、浅間山、四阿山、戸隠から妙高の山々まで、360度の大展望だ。冬山でこんなすばらしい景色に出会え

るのは一生にそう多くはないだろう。最高の景色に出会えたことに感謝の気持ちを持ちたい。

来た道を燕山荘に戻る。イルカに似た岩も教えてもらい、槍ヶ岳を見ながら戻る。

少しくつろいでから、夕日に染まる山を撮影するために小屋の外に出る。夕日に照らされた燕岳や遠くの鹿島槍ヶ岳、そして近くのシュカブラを楽しみ、シルエットとなった槍ヶ岳も楽しませてくれる。



アーバントロートに染まる燕岳

☆12月28日

モルゲンロートに染まる山々を撮りたいと多くの人が小屋の外に出る。私も、Fさんお勧めのヘリポートの方に行って日の出を待つ。朝日は蓼科山のさらに左側から出てきた。槍ヶ岳よりも先に燕岳がきれいに染まった。場所を山荘の玄関前に移動し、何枚か写真を撮る。その後、ヘリポートの場所に戻り、槍ヶ岳を中心に写真を撮る。



モルゲンロートに染まる槍ヶ岳

これだけの好条件に恵まれることは非常に珍しく、小屋の方も写真撮影に力を入れていた。集合写真を撮って、名残惜しい燕山荘を後に

する。これから向かう合戦尾根は雪煙が舞い、朝日に照らされて輝いている。山荘からすぐ下の斜面は滑落したら危険なため、F Kさん夫婦とアンザイレンして下る。

地吹雪の舞う合戦尾根は、なかなか厳しい山を歩いているように感じる。登りの時に通り過ぎてしまった「おほめの松」をFさんから教えてもらい写真に収める。名残惜しい槍ヶ岳に別れを告げて、合戦小屋へと下って行く。いつものことだが、下りは早い。登りの2倍近いペースで下って行く。登りのトレースを崩さないように注意しながらも、前の人の滑った短縮コースを利用してシリセードも活用して下る。

中房温泉でスパッツなどを外し、長い林道を歩く。来る時はどんより曇っていたが、今日は快晴だ。振り返ると稜線が見える。少し前まであそこにいたんだと、感慨を深めて、歩を進める。



燕山荘の前で

Fさんお勧めのくるまやのそばを食べたかったが、予定時間をオーバーし、食べていると予定の電車に乗れなくなるので、そばをあきらめてタクシーを呼ぶ。

タクシーの運転手さんが、今日は12月に入って一番良い天気だったという。好天に恵まれたおかげで、登頂できたことを感謝しつつ、大糸線の電車に乗り込んだ。

これで、今年の登山は全て終わりです。無事に終わることができたのは、みんなの力であり、いろんな方のおかげです。本当にありがとうございました。

来年も無事に登山を楽しめるように、がんばりたいと思います。

記：網干



槍穂高と大天井岳を背に

#### 《参加者の感想》

ありがとうございました。私達の入山を許可してくださった、燕岳さん、太陽さん、お月さん、素敵なお3日間でした。

そして F 夫婦を その3日間に導いてくださった リーダーはじめ皆様、本当にありがとうございました。感謝の気持ちで一杯です。夏の間はバスですんなり通ってしまう宮城ゲート～中房温泉・スイカも食べられない合戦小屋までの合戦尾根は、登りもくだりも、雪道は汗と鼻水で大変でした。そんな思いも頂上にたったら自然の美しさに感動し どこかに吹き飛んでしまいました。

今年最後の 山を飾ることができました。後わずかで今年もおしまいです。皆さまお体を大事にお過ごしください。

記：Y. Fさん



合戦尾根を下る

今年最後の山は冬の燕岳へ。

11月30日までは登山口までいけるのが、



林道ゲートから12キロも歩く。大の苦手な気が遠くなるような林道歩き。想像すらできなかった。しかし、そこにいて歩き始めると景色が変わる。意識も変わってくる。

時間の概念からはずれて、中房温泉到着。温泉が体に温かくて幸福感ばっちり。しかし、今日は序章に過ぎない。明日が本番。距離約5.5km 標高差 約1,260m。

27日快晴。燕岳は私たちを歓迎してくれたようだ。光の中へ入っていく。銀世界の中、異次元の世界へ、どんどん入っていく。山は歓迎してくれているのに息も切れ切れ、とにかくゆっくり歩いて標高を稼ぐ。歩いていけばつくというのは間違いはないはずと自分に言い聞かしながら、歩みを続ける。汗をかいてはいけなさと衣服調整は重要なカギになる。リーダーはみんなに聞いている。汗をかいてないか、寒くないか、暑くないか。リーダーはテントでも張るような装備で重そう。しかし、相変わらず早い。何度かワープしたようだ。



槍ヶ岳とイルカ岩(不破さん撮影)

樹林帯をぬける合戦小屋からの強風を心配していたが、無風。トレースもしっかりついている。合戦尾根も無風。槍ヶ岳がすごく近くに見える。遠くには富士山も。パノラマで日本の名峰がずらりと整列している。すごい、すごい。

燕岳へ行って帰り、山荘へ入ると「お疲れ様」

## ★大平山(1月11日)

参加者 会員(障害者3名、健常者5名)

というスタッフの言葉。心と力が抜けた。

夕焼けに染まる槍ヶ岳がそれはもう素晴らしく、ここはどこだ?という気持ちになる。何度かここに立っているが、山は姿、形を変えずに同じ場所に鎮座している。仏像のようだ。

3日目は下山。5.5キロ+12キロ。中房までは転がりながらあっという間に感じたが、ここからがわたしの覚悟のスタート。12キロの林道歩きがちゃんと待っている。歩く、歩く。ひたすら歩く。前に体重がかかり、だんだん足先が痛くなっていく。靴のひもを結びなおす。ゲートに着いたときはやったね、と気持ちは晴れ晴れ。なんでそんなことが楽しいのかといわれるが、これは歩いてみないとわからないものですね。

今年もよく山を歩かせていただきました。また山に行くの?といいながらも見送ってくれた家族に感謝します。そして、つらい顔もせず、それぞれの個性をつぶすことなく、笑顔で(時にはこわい顔してましたけど)山へいざなってくれるAリーダー、今回一緒に励ましあいながら同じ時間をともに過ごしてくれた仲間感謝します。ありがとうございました。来年もよろしく願います。 記:S. Kさん

## コースタイム

12/26 宮城(11:00)…観音峠(12:50-12:55)…中房温泉(15:30)

12/27 中房温泉(7:00)…第3ベンチ(9:25-9:35)…合戦小屋(11:20-11:45)…燕山荘(13:35-13:45)…燕岳(14:35-14:45)…燕山荘(15:25)

12/28 燕山荘(7:15)…合戦小屋(8:15-8:30)…第3ベンチ(9:20-9:30)…中房温泉(11:05-11:25)…宮城(15:30)

2015年最初の登山は、富士山が見える場所が良いとの要望を受け、富士山の近くの大平山にした。

天気だけが心配だったが、素晴らしい天気に恵まれた。しばらく雪も降っていないようで、軽アイゼンも必要なかった。

高速バスの車窓から、富士山がくっきりとひととき大きく見えてくる。高速バスは終点の山中湖平野で下車し、トイレを済ませた後、歩き始める。

道志みちを歩き、石割山ハイキングコース入り口で石割山方面の車道を歩く。すぐに尾根に上がる予定だったが、登山道の入り口を通り過ぎてしまったようだ。そのまま車道を歩き、駐車場のある東屋で小休止。厚着をしていると背中がぼかぼかして暑いくらいだ。風は冷たいがこれから登りになるので、薄着になって歩く。

石割山方面の登山道を右手に見て、そのまま車道を登っていく。林道となり、沢を渡るとようやく登山道になる。最初は先頭にいたY君が後ろに行き、かなり遅くなってしまった。



平尾山山頂でのY君とKちゃん

先頭は、当初予定していた尾根コースに合流し、緩やかな傾斜を登っていく。しかし、Y君たちがなかなか登ってこないで、しばらく待つことにする。ようやく合流し、一緒に登っていくと、葉を落とした木々の間から富士山が見えるようになった。

尾根をしばらく登り、左にトラバースするようになると、石割山からの登山道に合流する。この尾根は展望が素晴らしい。合流したところ

より、平尾山は少し低かった。しかし、展望は抜群。正面に富士山が見え、左手には山中湖が見下ろせる。その反対には杓子山も見える。すでに3パーティーほどが休憩していた。我々は大平山で昼食にすることにして、先に進む。

平尾山から階段を下る。正面にこれから登る大平山がよく見えている。階段を下りきって、車道の脇にある山道を歩く。さらに階段を登っていく。登り切ったところからさらに少し下る。Kちゃんは、トトロの道だねと言っている。葉を落としているが、両側から伸びた木でトンネルのようになっている。



大平山山頂にて

最後の階段をがんばって登ると、大平山に飛び出した。すでに富士山の山頂は雲に包まれてしまっているが、全く障害物がなく、正面に富士山が見える素晴らしい場所だ。とても広い山頂で、ベンチに座ったり、草むらにシートを敷いてお昼を食べたりする。Fさんがコンロとコッヘルを持ってきて、ココアを振る舞ってくれる。体も心も温まって、心ゆくまで富士山などの展望を楽しむ。残念ながら、今日は南アルプス方面は雲の中で、見えなかった。振り返ると、今日登ってきた平尾山とその奥に石割山、左手に御正体山、右手には丹沢の山々が広がり、山中湖の向こう側には鉄砲木の頭や三国山が見える。さらに富士山との間には愛鷹山も見えている。

大平山からも見晴らしの良い尾根が続く。長池山では、子どもたちが演奏に合わせて踊りたいというので、スマホでYoutubeに接続し、

「おどるポンポコリン」や「ソーラン節」などを流す。子どもたちは喜んで踊っていた。

大出山の手前で湖畔に下る予定だったが、時間もあるので、少し遠回りをしてホテルマウント富士経由で下る。ホテルの前からは、三ツ峠山と杓子山がよく見えた。



ここから車道を下るが、途中でY君がトイレに行きたいという。それも小ではないようだ。トイレを探しながら歩くが、なかなかない。途中にあったボーリング場はトイレだけの利用

## ★倉見山(1月18日)

参加者 会員(障害者3名、健常者6名)

参加者の状況で弘法山も検討したが、サポート体制が何とか組めそうなので、当初から予定していた倉見山を実施することにした。

山梨県では木曜日に雪が降った。都留市のホームページを見ると、麓は10cmくらい。登山口は15cm、山の上は20cmとなっていて、雪崩や滑落の危険があるから入山しないようにと書かれている。これは、雪の経験のないハイカーにはその通りだと思うが、山の経験があるものには、美しい雪景色に出会える少ない機会。とにかく、現地で状況判断することとして決行した。

最高の天気恵まれて、富士山が大きく見えてくる。めでたい名前の「寿駅」に降り立つ。

はお断りとしっかり張り紙がされている。もうダメだというY君にがんばれと言いながら、ようやくコンビニを見つける。後ろのメンバーと大幅に距離が空いたと思うが、今はそれどころではない。ようやくコンビニに入ってホッと一息。後ろのメンバーもすでにコンビニに来ていた。

予約していた高速バスを、Kさんが電話で交渉して1本前のバスに変更してもらった。予定より1時間ほど早くバス停に着いたので助かる。レストランでお茶を飲んだグループも戻ってきて、高速バスに乗り込んだ。

1年の最初の登山で富士山をたっぷり楽しんだ1日でした。 記：網干

## コースタイム

平野(10:20)…平尾山(11:35-11:45)…大平山(12:20-13:05)…長池山(13:40-14:00)…ホテルマウント富士入り口バス停(15:00)

無人駅だった。駅を出ると、すぐに大きな富士山がよく見える。コンビニで食べ物を仕入れ、トイレを借りて出発する。



学校の道路に面した壁にはきれいな壁画が描かれている。子どもたちとの関わりが長かったCさんは、「良い教育をしているな」と評価していた。高速道路の下をくぐって行くと、畑の雪景色の向こうに障害物なく富士山が見える。望遠で引くと、距離感が圧縮されて富士山

がひときわ近づいて見える。

登山口が分かりにくく、シチズンの物流センター手前に道があったので、そこを登ってみることにする。しかし、トレースは全くなかった。雪が滑りやすいので、全員、軽アイゼンを付ける。

道なりに登っていくが、どうもここは鉄塔の巡視路のようだった。それでも、尾根の上に出てきて、別のトレースに合流する。私の2006年版昭文社の地図にはこの尾根コースの登山道は書かれていないが、最新版のものには書かれている。富士山がよく見える富士見台で休憩する。

ここからも踏み跡は少なかったが、登山道は明瞭だったので、尾根に沿って登っていく。登っていくと、時々富士山がよく見えるところを通過する。麓の町の雪景色も美しい。南アルプスの聖岳がまず見えるようになり、続いて荒川三山、そして手前の山の上に赤石岳が見えるようになる。



雪景色の富士吉田を見下ろして登る

雪は次第に深くなる。後ろと間が空いたので、落ちている枝をよけたり、踏み跡だけのトレースを踏み固めて広くしながら登っていく。今日は雲一つない快晴だ。東桂から登ることも考えたが、寿からの方が富士山がよく見える。このよく見えるコースを、東桂から登ると午後通過するため、逆光の富士山しか見られない。それも考えて、午前中の富士山を心ゆくまで見られる寿からのコースを選定した。これは正解だったようだ。

ようやく杓子山からの分岐に到着。山頂まであと一息。痩せた岩の多い尾根を慎重に登ると、見晴台に到着する。ここで昼食タイムとする。すでに13:30。富士山は逆光になり、純白には見えなくなっていた。

予定より1時間以上遅れているので、山頂で集合写真を撮り、早々に下山を開始する。この下りが今日のポイントだ。なかなか急坂で、不慣れな人をサポートしながら下る。ロープも一部に張られていた。

急坂を過ぎるとあとは歩きやすい。鉄塔を過ぎ、さらに下って行くと、麓の屋根がぐんぐん近づいてくる。降り立った長泉寺でアイゼンを外して車道を歩く。無風快晴のすばらしい富士山を楽しむことができました。みなさまお疲れ様でした。

記：網干



#### 《参加者の感想》

こんなに間近に雄大な富士山の姿を見ることができてハッピー！！

天気は晴れていて風もない 青い空に白い倉見山、またまた雪山体験です。

皆さんにカンパイ！！

富士山は今日も晴れていました。

記：Y.Fさん

晴天の中、富士急行線、三つ峠と杓子山の中の山、倉見山へいきました。

燕岳のときと同じように無風で富士山は裾野から山頂まで絵のように、ドーンとおさまっている。先週の大平山で見た富士山とは違って

おだやかに見えました。木金と雪が降ったらしく、雪は20cmほど積もっていて、アイゼンがよく効きました。倉見山までは標高をあまりあげることなく、長い距離を歩いて少しずつ山頂に近づく感じ。変化のない歩きに飽きてきてしまって、わたしは無言のまま、雪を踏む音をリズムよく楽しんでました。

山頂から見る富士吉田市の町波も真っ白になっている。これはこれで綺麗だなと思いました。登山客は少なくてすれ違ったのは3人くらいだったのでしょうか？

行く前は地図をみてこれがC?と思って臨んだが、歩いてみれば、恐るべし、倉見山、Cランクにふさわしい山でした。積雪があり、グレードはそれ以上だったと思います。転ぶとき

## ★宝登山(1月25日)

参加者 会員(障害者2名、健常者9名)

今日は蟬梅香る、宝登山へ向かう。リーダーは参加者の方が集まる池袋駅南口で集合しないければならないのだが、事務局のAさんがいらっしゃるといふことで現地集合にしてもらった。



ロウバイ

9:19には長瀬駅に着いたが、Aさんからのメールで電車が遅れているとのこと。みなさんと長瀬で会えたのは10:20。待ちに待っていた孫たちは大喜び。自己紹介をしてスタート。

はサポートする方もされる方も変わらない。ただ上手に転べるかどうかだなとひとりそんなことを考えながら麓を目指しました。

山では暑く感じたけど、道路に出たときはダウンを着込むほど風が冷たく感じました。電車の温かさが心地よくて、これを期待して歩いているんだろうなと思います。つぎはどこでそんな幸せ感を感じることができるのかな？

記：S.Kさん

## コースタイム

寿駅(10:05)…富士見台(11:05-11:10)…見晴台(13:30-14:00)…倉見山(14:05-14:10)…長泉院(16:00-16:20)…東桂駅(16:40)

子供たちはアルプ山行は今年は2回目。歩き慣れしてるから今日も元気で足取りも軽い。

宝登山神社の大きな鳥居を左手にまわり、宝登山登山口の標識をみて、林道をのんびりと歩く。ショートカットできる道があるのだが、先に行ってる方がいたので見失ってはいけなと、そのままともな林道のあるいて蟬梅園についた。このショートカット、以前は目印なんかなかったけど、登山者がどこでも歩いてしまうからつけたのかなと思う。高い木もなくて見通しがよくなっていて、以前より山頂が近く感じた。



宝登山山頂のロウバイ園にて

蟬梅園ではロープウェイで来た人がたくさん

んいて、蠟梅を見上げてめでている。おじいさんとおばあさんが日向ぼっこしていて、微笑ましかった。ちょうどお昼時、思い思いに昼食を楽しんでいる。わたしたちも蠟梅の向こうに秩父の山々がみえる場所に座って昼食タイム。仲間と食べる昼食は格別に美味しい。



蠟梅の下で写真を撮ろうという提案で綺麗な蠟梅の下で1+1はニー。パシヤ。体がちょっと冷えてきたかな~と思ったところで長瀬アルプス、野上駅という案内板をみて、出発。いきなり急な階段の下り。転ばないように注意しながら歩く。道は雪解けなのかぐちゃぐちゃして歩きにくい。靴に土がついてだんだん重くなる。野上峠で一休み。冬の里山歩きは枝が落ちて見通しもよく、個人的にはこういう山行は心が落ち着く。

先頭は小学三年生のK。リーダーのわたしを無視してどんどん歩いていく。Kはこれが桜の木だよとかいっている。それを後ろで聞いていたAさんは「くるみちゃんのほうがよく知っ

ているではないですか」といっている。わたしは、そうそうと言いながら気にしないでKのあとを追いかける。YはというとNさんとしっかり手をつないで歩いている。一段ずつ数を数えながら歩いている。長瀬アルプス入口の休憩所があり、そこにはロープでつながったブランコがある。Yが早速ブランコに乗っている。こういう場面ではKより素早い。

野上駅を目指す途中、人家の前でAさんの足が止まる。ジョウビタキのオスがいるという。わたしはなかなか見つけられないが、子どもたちはすぐに見つけている。きっと心にくもりがないのだろう。

予定より1時間ほど早く野上駅に着いた。羽生行の電車が5分でくるといふ。御花畑へ行く電車はそのあとにくるといふ。さよならの挨拶もそこそこに電車に乗り込んだ。

初めてのリーダーという役割で臨みましたが、自己採点は・・・皆さんにいろんなことを教わることができた山行でした。リーダーの先輩、孫たちの応援もあり、無事に終えることができました。皆様のご協力に感謝します。ありがとうございました。 記：柏樹

### コースタイム

長瀬駅(10:40)…宝登山(蠟梅園)(12:15-13:00)…小鳥峠(13:25)…野上峠(13:40-13:50)…天狗山分岐(14:15)…野上駅 15:05

※悪天候のため伊予ヶ岳が中止となりました。

## ハイキング報告

### ★第40回ふれあいハイキング(高塚山)(2月14日)

参加者 会員(障害児1名、健常者5名)  
会員外(健常者1名)

先週の伊予ヶ岳は残念ながら雨になってしまったが、今日は素晴らしい天気恵まれた。千葉駅からの行きの電車は外房線。御宿付近

で太平洋がよく見えるようになる。波打ち際にはサーファーが楽しんでいる。

千倉駅に着くと、すでにIさん親子が待っていた。Iさんたちは内房線の特急で来たらしい。男の子は電車に乗るのが好きだけど、女の子は電車で長く乗るのに耐えられないらしい。

千倉駅からバスで七浦小学校前まで行く。道路脇で自己紹介をして、ガイドブックを頼りに高塚山方面に向かう。冬枯れの里の風景も良いものだ。

大聖院に着くと、高塚山登山口と書かれた大きな丸太の標識がある。ここから登りにかかる。振り返ると町並みの向こうに太平洋が広がっている。

山道に入るとかなりの急坂だ。ジグザグの登りが続く。M君は、馬引沢峠の時のように腕にしがみついてくる。でも、今回はすぐにつかまるのを止めて、自力で歩いていた。

途中のベンチで休憩する。白間津の家並みと海がよく見える。メジロが木々の間を飛び交っていた。



高塚山山頂にて

ここからもまだ階段が続く。初参加のAちゃんもがんばっている。周囲の木々は多くがマテバシイだ。足下にはドングリがたくさん落ちている。登山道の脇には、植林した小さな木の支えとして立てた木に、子どもたちが書いた木札がぶら下げてある。それを読みながら登るとおもしろい。「(私の夢は)セブンイレブンでパートをすること」と書かれた木札もあり、みんな現実的だなと話していた。しかし、麓に下り

たらどこにもコンビニがない。Aちゃんは、「だからコンビニで働くのが夢なんだよ」という。う〜ん、なるほど。

鳥居をくぐると最後の階段上りが始まる。上からかなり高齢の人たちが大勢下りてきた。M君はかまわずぐんぐん登っている。

山頂に着くと古びたお堂がある。樹木が刈り払われたのだろうか、一部だけ海がよく見えるところがある。海を見ながらベンチに座って昼食タイムとする。高塚山山頂の標識には、房州低名山と書かれている。良い呼び名ですね。



お花畑にて

山頂からは来た道を引き返す。M君もAちゃんも順調に下っている。大聖院からは大川お花畑方面に向かう。しかし、まだこの付近はあまり咲いていない。



きれいに咲いたストックのお花畑

南房フラワーラインに出て、お花畑を探しながら、白間津バス停を目指して歩く。お花畑を管理している方に聞いたら、今年はかなり開花が遅れているとのこと。それでも、次のお花畑に着いたら、満開ではないがしっかりと咲いている。お花畑の中で集合写真を撮る。花を摘ん

で買っている人たちもいた。

バス停は近いが、かなり時間が余りそうなので、海を見に行く。海にかかる橋の向こうに大きな太平洋が見えた。

バス停で30分ほどバスを待つ。M君に「楽しかった?」と聞いたら、今回も「楽しかった」と答えてくれた。太陽の日差しがとても暖かか

った。

記：網干

## 個人山行報告

### ★タカマタギ途中まで(2月21日～22日)

参加者 会員(障害者1名、健常者3名)  
会員外(健常者1名)

林の少ない斜面を斜めに登っていく。ワカンをつけても30cm程度のラッセルだが、水分をたっぷり吸って非常に重い雪だ。

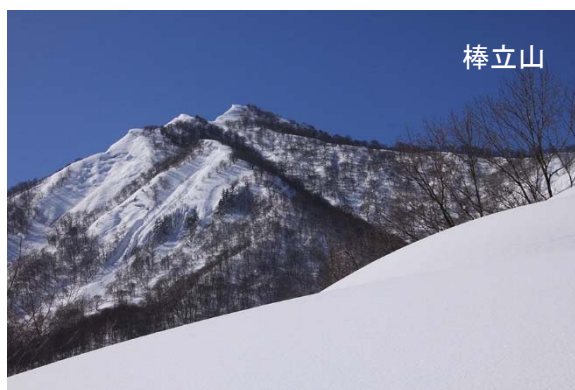
#### ☆2月21日

雪洞に泊まりたいという私より若い人たちの声に応じて、雪深い上越のタカマタギで雪洞山行を行うこととした。

降雪が続いている新潟県だが、この週末は好天に恵まれる予報になった。予報通り、当日は素晴らしい天気にも恵まれた。日曜日より土曜日の方が天気が良い予報なので、当初の計画を変更して、土曜日に山頂を目指すことにした。そのため、早朝の新幹線で越後湯沢まで行き、上りの上越線で土樽まで戻る。強い日差しに照らされて雪の白さがまぶしい。

土樽駅で足拍子岳に登るというブッシュ山の会の人たちと別れて、駅前の車道を歩く。毛渡沢の橋を渡って、すぐに左に折れる。しかし、ここで道を間違ってしまった。付いていたトレースにしたがってそのまま歩いていたら、林道がなくていつまでも沢の方にトレースが付いている。これは仙ノ倉山へのトレースのようだ。引き返して、線路脇の急坂を登る。そこからは、林道らしい両側を樹林に挟まれた雪道が続いている。

一つ目の尾根を過ぎ、二つ目の尾根を登っていく。本来の尾根末端ではなく、少し手前の樹



棒立山

それでも高度を上げるにつれて景色も変わってくる。まばらになった樹林の向こうに、茂倉岳や万太郎山が見えるようになる。これから向かう棒立山も見えてきた。



ラッセルをがんばるTさん

ラッセルは、男性3人で交代で行う。雪山が初めてのKさんもがんばるが、足を抜く時が雪の重さでつりそうだという。



標高 850m 付近の比較的平坦なところに雪洞を掘ることを決め、ここから空身で登ることにする。しかし、重い荷を背負ってここまで登った KS さんは、さすがに疲れたようで、ここで待つということで、4人で山頂を目指した。私も、22kg のザックがなくなり楽になったが、重い雪のラッセルは大変だった。



万太郎山と谷川岳

かなり登っていくと、目の前に垂直に近い雪壁が現れた。私が先頭で登っていく。F さんには無理なので、雪壁の下で待ってもらうこととする。雪壁の雪を崩し、足場を作って、ピッケルと手のひらを差し込んで登っていく。登り着いたところは、棒立山に続く尾根上だった。すばらしい展望が広がる。T さんも K さんも続いて登ってくる。尾根上からは、茂倉岳の右奥に谷川岳も見えている。そして、稜線が万太郎山へとつながっている。後ろには真っ白な巻機山が見える。



最終到達点の尾根にて

尾根上の展望を楽しんだら、雪壁を慎重に下る。F さんと合流し、KS さんが待つ雪洞予定地まで戻る。

早速、雪洞を掘り始める。入り口の箇所が四角になるように掘り、スコップで四角いブロックに切り出す。5人用の雪洞にするため、入り口を二つにする。両側から掘り進め、反対側から声が聞こえるようになると、すぐに貫通した。壁や天井がでこぼこにならないようにできるだけきれいに作る。完成するまで約2時間かかった。



雪洞を掘る T さん

その後、外できりたんぼ鍋を作って食べる。野菜や肉も豊富でこんな重いものを持ち上げてくれた K さんと KS さんに感謝だ。

夜、雪洞内で寝ていると、天井から滴が入り口にいる K さんのシュラフカバーに落ちているようだ。対策するのも難しく、K さんは一晩だけだからと我慢してくれた。



夕食はきりたんぼ

☆2月22日

朝、起きると雲が増えていたがますますの天気だった。しかし風は昨日より強い。朝食のパンを食べ、今日の予定を聞くが、みんな下ることに賛成だった。正直、私も疲れているので、下山する意見にホッとした。

朝なのに雪は柔らかく潜るため、下りもワカンを付けた。登りと違って下りは早い。それでも、10時6分頃発車する電車に遅れないように、途中からさらにペースを上げる。最後の車道は気合いを振り絞ってがんばる。先頭はやっと10時に駅に到着する。時刻表を見ると、10時6分発は、下りだった。登りは12時過ぎ。何もない土樽駅で2時間以上も待つのは耐えられないので、越後湯沢まで行って風呂に入ることにする。

駅にある酒風呂で汗を流し、登りの各駅停車で上野駅に向かった。真っ白な雪面はとてもまぶしかったが、仙ノ倉山にはもう笠雲がかかっていた。  
記：網干

### コースタイム

2/21 土樽(9:00)…毛渡沢(9:20-9:50)…尾根上(14:40)…850m 付近(15:00)  
2/22 850m 付近(7:40)…土樽(10:00)

## その他事業報告

### ☆臨時総会開催

来年度の事業計画を決める臨時総会を1月31日、八千代台東南公民館で実施しました。年間計画だけでなく、年会費についても意見

交換を行いました。詳細は臨時総会議事録を参照ください。

### ★活動紹介映写会開催

2月11日、八千代市総合生涯学習プラザで第7回目となる活動紹介映写会を実施しました。広報やちよ、八千代台東南公民館、八千代台公民館、八千代緑が丘公民館、村上公民館、八千代市総合生涯学習プラザなどを通じて広報を行い、会員以外の方の参加は、8人でした。会員の知り合いの方の参加もあったが、今回初めて山仲間アルプを知った方もいました。

映写会では、2014年度に実施した「共に楽しむ登山」で行った飛龍山、ハンゼノ頭、馬頭刈山、燕岳、第14回視覚障害者全国交流登山、北穂高岳～前穂高岳、ハンゼノ頭、「登山知識及び技術向上コース」で行った北穂高岳～前穂高岳、第8回目の「自然と親しむ子ども山登り教室」で行った伊豆ヶ岳、烏帽子岳、鹿島槍ヶ岳のビデオと、2014年に撮影した写真のスライドショーを上映しました。

会員以外の方にアンケートをお願いし、5人の方から回答をお寄せいただきました。その結果は、下記の通りです。

1. 映写会の案内がある以前にNPO法人山仲間アルプをご存じでしたか？
  - a. 良く知っていた 0
  - b. 名前だけは知っていた 2
  - c. 全く知らなかった 3
2. お住まいはどちらですか？
  - a. 八千代市内 5
  - b. 佐倉市 0



- c. その他千葉県内 〇
- d. その他の県 〇

3. 今回の映写会があることを何で知りましたか？

- a. 広報やちよ 5
- b. 八千代よみうり（または佐倉よみうり、北総よみうり） 〇
- c. 八千代市総合生涯学習プラザ内のチラシ 〇
- d. やちよ市民活動センターのホームページ 〇
- e. 知人からの紹介 〇
- f. ホームページ 〇
- g. その他 〇

4. 本日の映写会に参加されて、山仲間アルプの活動内容をご理解いただけましたでしょうか？

- a. 良く分かった 4
- b. 何となく分かった 1
- c. 良く分からなかった 〇

【理由】（自由記述）

- ・参加したいと思いました。
- ・写真もビデオも感動です。
- ・障害を持った方々へのサポートを見て感動しました。

5. 山仲間アルプの活動をどのようにお感じになりましたか？（自由記述）

- ・自分の身でいっぱいと感じます。
- ・全国規模の幅広い活動に驚きました。
- ・活動範囲が広い・・・驚きです。

### 各種連絡事項

☆1%支援制度に2015年度も支援金を申請します。

2015年度も「自然と親しむ子ども山登り します。ご協力いただけますよう、よろしくお教室」のスタッフの交通費などの支援金を申請 願いたいします。

### 会員情報

◎新入会員のお知らせ

12月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願ひします。（敬称略）

正会員

1名

未成年会員

1名

## 編集後記

### ・理事長のつづやき

「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。」夏目漱石が著した小説「草枕」の冒頭部分です。いろいろな人と接する中で、こう言えば相手の人はこう思うだろうと思って言っても、一度として思うとおりの反応をしてもらえことはありません。自分自身が人の気持ちを分からない人間だからだと思いますが、夏目漱石が書いているように、人の世は本当に難しい

ですね。だからこそ、おもしろいという一面もありますが、疲れる時もあります。

そんなとき、誰でも黙って受け入れてくれる山を思うと、「あー、自分もそう思えるようにならなければいけないな」と思います。いつまで経っても未熟な自分を反省しつつ、それでも関わってくれる人や山に感謝して、これからも生きていきたいですね。

### ・次回発行予定は、6月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで  
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208  
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝  
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

